

経営比較分析表（令和2年度決算）

兵庫県 多可町

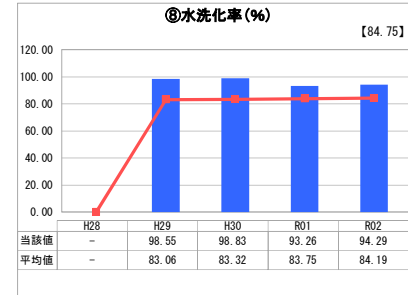
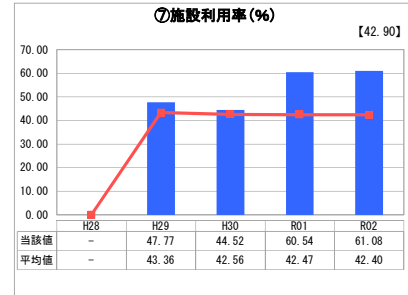
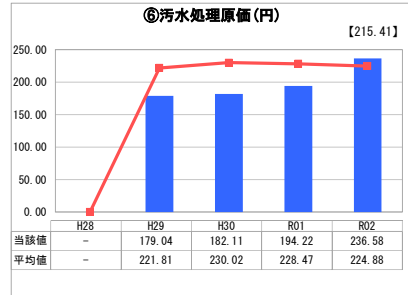
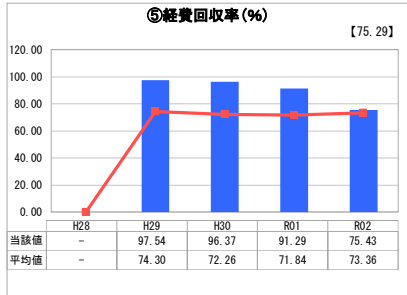
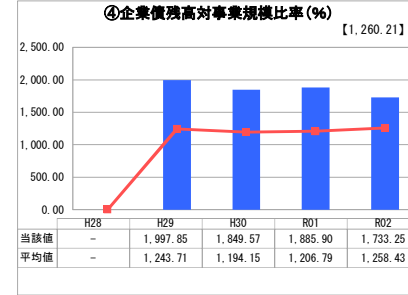
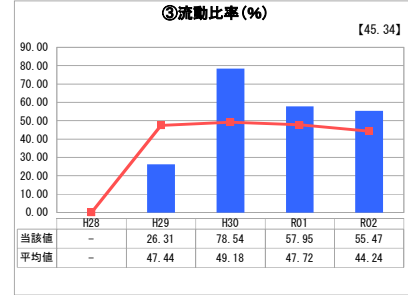
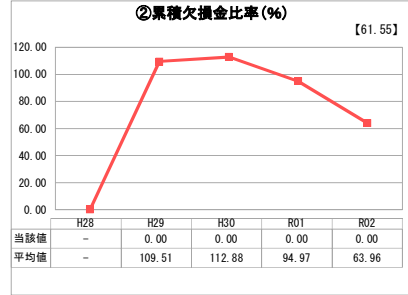
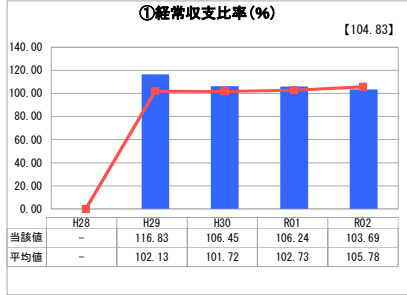
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	62.88	18.83	86.42	3,795

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
20,149	185.19	108.80
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,763	2.73	1,378.39

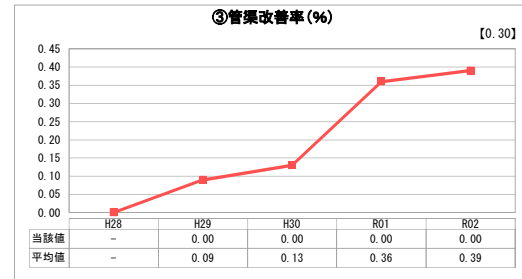
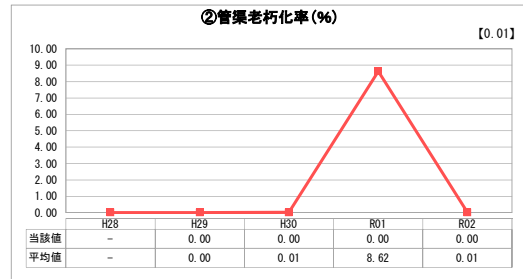
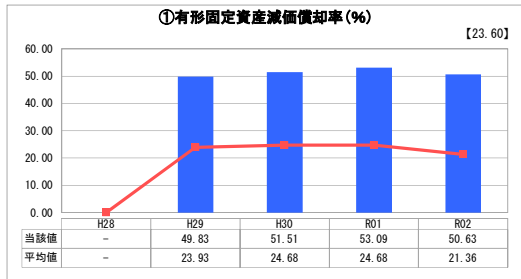
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [] 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ・経常収支比率については100%以上となっており、収支は黒字になっている。これは、一般会計からの補助金に類するところも大きいので、補助金額の増減に影響されるところではある。
- ・流動比率の値が100%を下回り、また企業債残高対事業規模比率が類似団体と比較しても高くなっているのは、本町が中山間地域のため処理人口が小規模であるが、当初の下水道管渠建設に多額な費用がかかり、その地方債借入額が高額であることが影響していると考えられる。
- ・経費回収率が100%未満となっているため、引き続き維持管理費の削減に努めたい。当年度は、処理施設の改築による除却費が高額になったため、指標が下がっている。
- ・汚水処理原価については、使用料単価150円/m³より高くなっている。今後は処理原価を低減させるため、維持管理費の削減が必要である。当年度は、処理施設の改築による除却費が高額になったため、指標が上がっている。
- ・施設利用率については、令和元年度から増加している。これは、杉原谷処理区の統廃合が完了したためである。
- ・水洗化率は94%と類似団体平均値より高い値となっている。今後も経営安定化のため水洗化の向上に努めたい。

2. 老朽化の状況について

管渠は、最も古いもので建設から30年経過程度で、直ちに老朽化の問題があるわけではないが、将来の改築更新に係る財源確保に関して考えていく必要がある。

全体総括

令和元年6月末に杉原谷処理区の統廃合工事が完了した。今後、維持管理経費など経営面での改善が見込まれる。
貴処理区については、他施設との統合が不可能なため、今後発生が予想される余剰系列の休止等、維持管理費の削減を行い、経営改善を進めていく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。